教育目標「人間性豊かな伸び伸びと明るい子ども」

大福幼稚園教育方針

「豊かな情操と心身の健全な発育を助長し、幼稚園教育要領および保育所保育指針に添い、人間性豊かな伸び伸びとした明るい子どもを育てる。遊びを通した総合的教育の中で多くの体験をし、一人ひとりの個性を大切に愛情深く育成する。」

幼児教育のプロフェッショナルとして、自信を持ち、明るく笑顔で、きめ細やかに

教育方針①　遊びを通した総合的教育の中での体験を重視した指導

園児にとって成長する過程での「遊び」は大変重要な役割を果たします。遊びを通して社会性を身につけ、人や物や自然との関わり方を学びます。

子どもの成長動機になることとして、

「感動したとき（感動）」「認められ褒められたとき（賞賛）」「物事を理解したとき、学んで分かったとき（理解）」「最後までやり遂げたとき（達成）」の４つがあります。この要素が子どもたちの遊びに熱中する姿の中には全部含まれます。

幼稚園教育要領では、子どもたちが生涯を通して生きる力の基礎を培う５つの重点領域を示しています。「自然とのふれあう（環境）」「基本的生活習慣を身に付ける（健康）」「友だちとなかよく遊ぶ（人間関係）」「音楽や身体による表現、造形を楽しむ（表現）」「日常会話や絵本・童話に親しむ（言語）」これら一つ一つを分離して活動するのではなく、総合的に関連付けた指導計画に沿って指導します。

教育方針②　一人ひとりの個性を大切にした教育実践

大福幼稚園では、先に示した５領域の総合的な教育指導を、子ども一人ひとりの個性と発達段階を見守り、また、子どもの思いや意欲を受け止めながら、力を伸ばすタイミングをとらえた一人ひとりに応じた保育や教育を心掛けています。その充実の為に、保育参観や必要に応じた教育相談・面談なども充実させ、家庭と連携をとりながらの保育・教育に努めます。

教育方針③　愛情深く子どもを見守り、安心感のなかでの保育実践

子どもにとって、一人で幼稚園で学ぶことは相当に心細くもあり不安でもあるようです。しかし、子どもの成長にはその心細さや不安を乗り越えていく場もまた必要なのです。だからこそ大福幼稚園では、一人ひとりの思いに寄り添いながら励まし、安心・安全に心を配った保育に取り組みます。

目指す子ども像(教育目標)

〇明るく素直で人の話がよく聞ける子
〇自分の意見がはっきり言える子
〇自分で考えて行動できる子
〇豊かな感性を持ち表現できる子
〇最後までやりぬくことができる子